

《特集》ブロック研究会活動報告



昭和63年度は秘書研究を推進する活動の一環として、「研究助成」制度が施行されました。これによって、ブロック研究会の果たす役割も一層増大され、ますます活発な研究活動が期待されます。

本号は、各ブロックから本年度のこれまでの活動状況をご報告いただき、特集としました。

北海道ブロック

●リーダー

浅川修二 北海道栄養短期大学

●サブリーダー

白川智洋 静修短期大学

運営委員

大賀 淳 北海道武蔵女子短期大学

丹治 和典 静修短期大学

能登 洋子 札幌大学女子短期大学部

和野内崇弘 静修短期大学

昭和63年度北海道ブロック研究会活動報告概況

ブロック研究会は4年目を迎えて、運営方法は大体定着してきたと考えられる。人数が少いためにまとまり易く、親しさが増すというメリットはあるが、発表者が固定する傾向がみられる。

今後の課題として、研究内容の充実ということであるが、やはり発表数の増加が前提条件となるであろう。

活動状況は以下の通りである。



第6回研究会

開催日 昭和63年4月30日(土)

場所 北海道文理科短期大学

参加者 18名

研究発表

丹治和典先生(静修短期大学)「女性のリーダーシップ特性と秘書資質との比較」では、女性の職場進出が量・質ともに拡大している現代において、女性リーダーの必要性が叫ば

れている。そこで、①女性のリーダーシップ能力特性に関する考察と職場における女性の地位向上を阻害する要因・問題解決の手だてを論証する。また、②秘書に求められる資質との比較について研究することによって、「セクラシップ」(リーダーシップに対しての仮の名称)を、リーダーに求められる資質の部分集合とみなしている。また、女性従業員の職務遂行上の変化の方向は、定型的業務(静態的な仕事)の仕方から、OA化により業務内容に変化が起き、意思決定へのサポートイング(動態的な仕事)へと移りつつあり、秘書業務も当然その影響を受けざるを得ないと論及している。丹治先生は、ブロックの推薦を受けて、6月23日に行われた全国大会で発表された。

乳井克憲先生(静修短期大学)「国語表現法における一つの試み」では、国語表現法の授業方法に関する具体的な提案が示された。まず、秘書が扱う日本語表現の範囲・概念について述べ、次いで、カリキュラム上の問題点をあげ、実際の練習問題によって効果的な授業展開を図ろうとしている。

和田佳子先生(日本ビジネス総合専門学院)「秘書教育一年を終えての実態報告」では、新任教員の実践報告がなされた。

浅川修二(北海道栄養短期大学)「求められる秘書像に関する一考察」では、企業の求める秘書の条件の変化と短大の秘書教育の現状をみるときに、一概に秘書教育といっても格差があり、必ずしも企業の求めているものと一致しない面があることが指摘されている。さらに、企業の秘書についても将来は変らざるを得ない実情から、果して求められる秘書像とは何かについて考察している。

研究会終了後、創立50年の歴史を持つ酪農学園(酪農学園大学、北海道文理科短期大学)の附属研究施設(農業管理棟・牛舎)を見学、新鮮な牛乳をお土産にいただいた。



第7回研究会

開催日 昭和63年11月26日(土)

場所 北海道女子短期大学

参加者 24名

挨拶において、浅川から、「秘書学・秘書教育の現状と今後の方向」について報告された。その内容は、創成期から発展期段階に入り、研究も情報化・国際化・専門分化へ深化していくという認識である。

研究発表は、松原智津子先生(静修短期大学)「視聴覚教材を利用した接遇の基本姿勢及び動作の改善に関する考察」であり、実際に学生の接遇動作をビデオに収録したものを使って報告し、基本動作を身につけさせるための効果的実験結果が紹介された。

発表後、和野内崇弘先生の批評と秘書学研究方法についてのコメントがあった。

なお、「せくれたりーNo.3」は1989年2月に発行予定である。(浅川修二 記)



関東・東北ブロック

●リーダー

高月東一 東京工芸大学女子短期大学部

●サブリーダー

森脇道子 産業能率短期大学

運営委員

天野 恒男 東京家政学院短期大学

植竹由美子 学校法人東北外国語専門学校

大宮 登 山形女子短期大学

木下 雪江 共栄学園短期大学

佐藤 啓子 常磐学園短期大学

佐藤東九男 東京工芸大学女子短期大学部

白井 勇 専門学校 第二中野スクール

・オブ・ビジネス

須賀 登 専門学校 東京スクール・オブ・ビジネス

高井由喜雄 学校法人 川口学園

中佐古 勇 日本橋女学館短期大学

西谷 正弘 目白学園女子短期大学

藤田 利久 産業能率短期大学

堀江 光 城西大学女子短期大学部

関東・東北ブロック報告

4年目を迎えたブロック研究会は222名の会員数となった。規模的にはブロック研究会の枠を超え、研究会本来の意図が薄らぐ気配も感じられるようになってきた。

これに対して、前年度会員に行った研究会運営に関するアンケートの結果を前提にして、いかに限られた条件の中で研究を進展させていくかを考えた。



この結果、研究会の持ち方を新入会員のために秘書研究に関する疑問や質問を持ち寄って話し合う「Q&Aグループ」を設けたほか、4つの研究領域のグループに分かれ、継続研究を志向する進め方に変えていくことにした。

研究会活動

第6回研究会

開催日 昭和63年3月26日(土)

場所 第二中野スクール・オブ・ビジネス

参加者 89名

《特別講演》

東芝(株)総合企画部担当部長

工学博士 森 健一氏

「知能情報社会にむけて」

《研究発表》

第二中野スクール・オブ・ビジネスの中村潔志氏・石松美保子氏から「OAと秘書教育」と題して、OA教育の実践報告がされた。

中村氏から秘書教育における情報教育の目標は、情報処理機器と業務の関わりを見極めることのできるユーザー養成にある。そのために、①社会のニーズと教育内容のギャップをどう解消するか ②ハード、ソフトとも欠如している統一規格にどのように対処するか ③情報のセキュリティの考え方をどのように教えていくか、が今後の課題であるとの報告がされた。

石松氏からはワープロ教育においては、単なるオペレーター養成ではなく文書起草能力の養成が重要だとする指導実践報告がされた。

福島女子短大の石田氏からは「秘書業務の実態報告」と題して、秘書の仕事内容は経験よりも組織の規模と経営方針によって決定されることを実態調査により検証したことの報告がされた。この結果から、秘書教育の担当者として、①小規模の組織への選択を学生にどう伝えるか ②秘書技能より人柄を重視する採用側に教育担当者としてどのように対処

していくべきか、が課題との発表があった。

第7回研究会

開催日 昭和63年10月28日(土)

場所 津田スクール オブ ビジネス

参加者 96名

《特別講演》

(株)ハナエ モリ インターナショナル

常務取締役 吹田靖子氏

「企業における女性の可能性を求めて」

—広告とファッション—



《研究発表》

第1会場では、育英短期大学の大窪久代氏から「法律秘書の資質論に関する一考察」と題して、リーガル・サービス・マーケットの質的变化に伴って法律秘書としてのスタッフが活躍する場が発生・拡大している。法律秘書の必要な要件としては、基礎的な法律知識の修得と実務経験のほか論理的・客観的思考能力や法的な思考態度がある。この法律問題への強い関心と法的思考が、一般の秘書と比較してその特殊性を表すところのものである、との発表があった。

第2会場では、嘉悦女子短期大学の古閑博美氏より「秘書教育における英会話教育」と題して、国際化した現在、英語の重要度は増すばかりであり、自分のプレゼンテーションができる位の英語力は必要である。そのため、英語にあまり興味をもっていない学生たちに関心を抱かせ、興味を引き上げ持続させながら、さらにビジネスの場で通用する英語指導の方法についての実践報告があった。

(藤田利久 記)

中部(東海・北陸)ブロック

●リーダー

横山静棋 市邨学園女子短期大学

●サブリーダー

奥喜久男 東邦学園短期大学<東海地区>

吉田寛治 金沢女子短期大学<北陸地区>

運営委員

<東海地区>

伊藤 和子 市邨学園短期大学

河村 眞澄 名古屋短期大学

島本みどり 東邦学園短期大学

中村 健壽 静岡県立大学短期大学部

水野 清子 岡崎女子短期大学

<北陸地区>

岡野 絹枝 富山経済専門学校

奥村 眞澄 仁愛女子短期大学

北潟 克輔 金城短期大学

水谷内徹也 星稜女子短期大学

昭和63年度の中部ブロックの活動を語るには、この年に名古屋市で開催された、第7回全国大会に触れなくてはならない。これによ

ってブロックの運営委員を中心とした協力態勢が強化されたことがあげられる。東海と北陸との協調もいっそう進んだ。東海地区の中では、全国大会の実行委員となった会員の方々が一致団結して休日も返上して協力して下さった。このことは今後のブロックの運営・活動に心強いプラスになっていくであろう。今一つはブロックでの会員数の増加であり、地元での学会の開催がなんらかの刺激になっているのではないと思われる。この地方の非会員から学会参加についての問い合わせも数多くあった。

北陸地区では吉田寛治サブリーダーのもとに、全国大会の前の週の6月18日(土曜日)に研究会が開催されている。

次にブロックリーダー横山先生が10月に健康をそこなわれ入院されたことである。全国大会委員長として先頭に立って激務をこなしてこられたお疲れもあったにちがいない。(幸い経過は順調で、すでに退院されお元気を取り戻されつつある。)このようなこともあって、

例年10~11月に実施していた秋の研究会が、今年度は年明けの1月7日に東海・北陸合同で名古屋の愛知会館を会場として、39名の出席のもとに行われることになった。今回から編成変更で近畿ブロックより中部ブロックになった三重県からも2名が参加されている。研究発表のテーマ、発表者とそれぞれの主な内容は次のとおりである。(敬称略)



1. 水谷内徹也(星稜女子短期大学)

「女性従業員の要件と短期大学・秘書教育」

ここ数年来、我が国における産業構造の変化に伴う労働力、特に女子労働の質的变化には顕著なものがある。この発表は石川県下の311社を対象に実施した実態調査をもとに、女性従業員に求められる資質・要件と短期大学

の(秘書)教育への要望についての実証的な分析を試みられたものである。全国短期大学秘書教育協会が昭和62年に実施したものの中の同種の実態調査との比較分析もなされている。

2. 水野清子(岡崎女子短期大学)

「上司の期待と秘書の意識」

講習会参加者を対象に行われた意識調査を分析されたものである。1.初級秘書が講習会に期待するもの、2.初級秘書の弱点、3.上司の期待、4.上司、先輩が指摘する初級秘書に欠けるもの、5.秘書教育の社会的評価などにわたる。

3. 小谷野錦子、佐々木冷子、濱本幸宏

(愛知学泉女子短期大学)

「企業活力の導入による秘書教育の活性化」



現在の日本企業のレベルはきわめて高いものがある。一方、入学して来る学生は職業、企業、労働に対する認識は低い。このギャップを埋めるためのパイプ役として開講された「現代企業論」のユニークな内容の紹介と教育的効果ならびに今後の課題についての発表である。

4. 清水たま子(東邦学園短期大学)

「仕事の進め方の基本(主に手順化を教える。)

企業で実際に働いている女性を見ていると「仕事の進め方の基本」が修得できていないために、何年経っても向上がみられないタイプが多い。OJTで身につけることもできるからというので、概念的に教えるだけでは不十分である。事務管理の授業の中で实际的に教えることを試みた体験的報告である。

さて今後の課題の中に、懇親会のもち方がある。アンケートの結果などをふまえながら、中部ブロック各地の史跡・名勝・リゾート地で、より多くの会員参加のもとに、研究と親睦の成果をあげていきたいというのが運営委員会の今年の夢である。(奥喜久男 記)

近畿ブロック

●リーダー

田中篤子 松蔭女子学院短期大学

●サブリーダー

福永弘之 兵庫県立姫路短期大学

運営委員

荊木 淳己 京都短期大学

宇都宮垂穂 園田学園女子短期大学

緒方 真澄 平安女学院短期大学

武田 寿子 大阪医療技術学園

矢野智恵子 京都経営経理専門学校



第5回研究会

昭和63年3月26日姫路城を望む「兵庫県立歴史博物館」で行いました。館内見学してから講演にうつりました。講師は関西女学院短大講師の濱名篤氏で「実態調査と論文作成の方法について」という題でした。実際に自分で行なわれた社会調査に即して事例研究的に論を展開されたので、あとの質疑応答も活発でした。個人研究発表では藍野学院医療技術専門学校の石井京子氏による「医療秘書実習における役割認知がストレス認知におよぼす効果」という題で行なわれました。同学院の病院実習を行った学生127名について行な

われたもので、業務に対してははっきり責任感を認知している者、業務の目的を明瞭に認知している者、自分の果たすべき役割をはっきり理解している者が、そうでない者と比較するとストレス感が低いという実験結果の報告でした。次に聖和大短大部の林雄太郎氏と大阪青山短大の内之宮則子氏による共同研究「服飾デザイナーの秘書の職能研究」が内之宮氏によって発表されました。はじめにファッションデザイナーをめぐるファッションスペシャリストの紹介があり、次いでファッション・デザイナーの秘書としては、補佐業務、補完業務、企画調整業務があることが発表されました。

第6回研究会

今回は、元アメリカIBM訓練部長、前全米秘書協会会長をされ、現在ニュージャージー州のサークル・トレーニング・アソシエツ社長のパーサ・J・ストロナック氏が台湾のアジア秘書会議にみえ、東京に立ち寄られた機会に関西まで足をのばして頂いて、6月10日午後6時から、神戸市六甲台の「きらら」で会食しながら懇談するという型をとりました。ストロナック氏より、パソコンをはじめとするハイテク機器を使用しての教育の必要性とニュージャージー州での実態が報告されました。その後、IBM社での体験及び同社での秘書養成など中心に質疑応答が行なわれ、3時間をこえる実りある会合でした。紙数の都合上詳しく紹介できないのが残念です。

第7回研究会

昭和63年10月29日、大阪市の「なにわ会館」で行なわれました。講演は関西学院大の立木茂雄講師で「ベーシック・インタービューイング・スキル」という題で、ビデオを使って、インタビュー法について詳しく紹介していただきました。個人発表は多くて、滋賀女子短大の岡本幸男氏が近江商人の夫人の功を地元秘書になぞらえて「近江商人と地元秘書—内助の功の一考察—」、大阪成蹊女子短大の亀井清氏が豊富な実践体験をもとにして、「大阪成蹊女子短大におけるOA(ワープロ)教育について」、高松短大の永井宏一氏(伊丹市在住)は、今まで研究されていない男性幹部秘書について、彼等に必要の要件を中心に現場の体験をまじえて「最近の企業における秘書業務の問題点」、聖和大短大部の林雄太郎氏は前々回の統篇ともいべき「法律秘書とその職能2」をできるだけ実態に即した形で発表されました。今回は出席者も発表者も多くて盛会でした。今後も出席者・発表者とも益々多くなれること期待しています。(福永弘之 記)



中国・四国ブロック

●リーダー

清水慶秀 広島女学院大学

●サブリーダー

森貞俊二 松山東雲短期大学

運営委員

岡田 聚 川崎医療短期大学

胡 義博 鈴峯女子短期大学

佐藤正則 徳島文理大学

三宅耕三 香川短期大学

中国・四国ブロックの第5回研究会は、昭和63年11月26日、広島シティホテルにおいて、31名(会員28名、その他3名)出席のもとで開

催されました。ブロック運営委員長の開会の挨拶のあと別記の大会プログラムにより研究発表と講演会が行われました。まず、広島女子商業高校の柴山正先生より「秘書業務に於ける印章の取り扱いについて」のテーマで発表がありました。印章の歴史的考察に始まり、今日の会社の文書類(領収書、契約書、取締

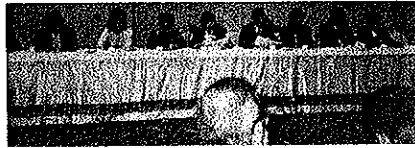


役員議事録等)と印章の役割について興味深い報告がありました。川崎医療短期大学の大森健三先生は「ワードプロセッサにおけるローマ字入力とかな入力の比較—速度と正確度について—」と題して、スライドを使用され、その中でいくつかの統計データに基づきながら、ローマ字入力とかな入力のそれぞれの長所・短所を説明され、結論として、速度的にはローマ字入力の方が優れているということでした。このあと出席者の自己紹介をかねて、今後のブロック研究会の運営等について話し合いが行われました。次いで講演会にうつり、地元広島金融機関である広島信

用金庫の人事部統括調査役の古田幸恵氏が「金融機関における秘書室のシステムについて」と題して講演されました。最初に入社試験の採用基準、秘書担当者としての採用条件および入社後の研修等について話され、現在の秘書室の構成スタッフと秘書業務の概要、特にスケジュール管理、接遇、文書管理、役員間での稟議の管理・回付等について、金融機関という業務に関連させた貴重なお話しがありました。

第5回ブロック研究会は、以上のように研究発表者2名に講演会とこれまでの研究会の研究発表者5名に比較し、少し寂しい研究会となりましたが、研究発表のあと活発な質疑応答が行われ、むしろ時間が不足する程でした。また、研究発表の他に講演会を加えましたが、我々、日頃秘書教育に携わるものとし

て、企業が今日求めている人材について、その一端を窺い知ることができ、今後の秘書教育に参考となるものでした。次回の研究会は、平成元年11月中旬、松山東雲短期大学を当番校に松山市で開催される予定です。



〔別記〕

中国・四国ブロック研究会

第5回大会プログラム

昭和63年11月26日(土) 13:00～16:30

於 広島シティホテル

13:00～ 開会の挨拶

ブロック運営委員長 清水慶秀(広島女学院大学)

研究発表〔司会〕三宅耕三(香川短期大学)

- (1) 13:05～ 秘書業務に於ける印章の取り扱いについて
柴山 正(広島女子商業高校)
- (2) 13:35～ ワードプロセッサにおけるローマ字入力とかな入力の比較
—速度と正確度について—
大森健三(川崎医療短期大学)
- (14:05～14:35 一出席者の自己紹介—)
休憩(14:35～15:00)

講演会〔司会〕胡 義博(鈴峯女子短期大学)

15:00～ 金融機関における秘書室のシステムについて

古田幸恵(広島信用金庫人事部統括調査役)

16:20～ 閉会の挨拶

ブロック運営委員 森貞俊二(松山東雲短期大学)

(胡 義博 記)

九州・沖縄ブロック

●リーダー

井下謙次郎 鹿児島女子短期大学

●サブリーダー

内藤郁世 佐藤ビジネス専門学校

運営委員

井原伸允 香蘭女子短期大学

高 禎助 鹿児島女子短期大学

加島静江 中村学園短期大学

佐藤昭雄 近畿女子短期大学

千住 方 西日本新聞社秘書部長

田村幸子 福岡女子短期大学

中川厚子 長崎女子短期大学

—西日本地区企業調査—

香蘭女子短期大学 佐古俊郎

1. 秘書教育における体験学習を基礎にした人間関係(論) 演習講座のカリキュラム開発 鹿児島女子短期大学 高 禎助
前者の研究は、昭和62年から63年にかけて行なわれた福岡61社、大阪53社、計114社の企業の女性秘書業務の実態調査に基づくもので、調査項目は①秘書業務のシステム②女性秘書に望まれる能力③女性秘書に望まれる資質④女性秘書の教育訓練⑤女性秘書のキャリア・デベロップメント・プログラム⑥女性秘書のイメージ等多岐にわたるものである。

論を中心として学習するのではなく、行動(体験)を通じて人間関係への理解を深め、家族・友人・職場の中で、より機能的、生産的、積極的に行動しうる資質を育成することを目的とする。また「知識を中心とする教師中心の授業形態は学生にとって魅力を失いつつあるのではないだろうか。行動学習は学生の参加に関する欲求を満ちし、学習意欲の向上をもたらす可能性を秘めている。」との観点から高氏が開発したカリキュラムが紹介された。

その内容は①オリエンテーション②積極的傾聴③グループ編成④イメージによる対人認知⑤心の四つの窓⑥自己開示とフィードバック⑦グループワークNASA⑧グループワーク「パスは待ってられない」⑨TA(交流分析)⑩TA(交流分析)⑪グループワーク「若い女性と水夫」⑫ブレイン・ストーミング⑬KJ法によるまとめ⑭映画「旅立ちの青春」と自己決定。

授業風景のビデオを使つての発表は、参会者に多大の関心呼んだ。

その後、懇親会で会員相互の親睦を深めた。

(井下謙次郎 記)



九州・沖縄ブロックは、昭和63年9月17日、福岡市の佐藤ビジネス専門学校で、本年度第2回(通算第7回)の研究会を開いた。参加者は、福岡を初め、長崎、佐賀、大分、鹿児島等から30余名。

まず、さきの大会で決定した「研究助成」等の説明があった後、つぎの2件の研究発表が行なわれた。

1. 女性秘書に望まれる諸要件について



秘書システム(個人型、集団型、折衷型)と望まれる能力の順位(判断力、接遇力、事務力、記憶力、行動力、忍耐力、表現力、文章力、折衝力、交際力)また秘書システムと望まれる資質の順位(誠実、明朗、口が堅い、几帳面、謙虚、信頼性、自主性、努力家、研究心)など、企業が女性秘書に何を望んでいるかをうかがわせる示唆に富む内容であった。

後者の研究は、高氏の鹿児島女子短大における「人間関係論」の実践報告である。「行動学習(体験学習)は、人間関係を知識・理



—「研究助成」制度について—

秘書学及び秘書教育の発展に寄与する研究を奨励するために、「研究助成」制度が1988年7月に施行されました。内容の詳細については、すでに各会員にご案内のとおりです。

なお、1988年度の研究助成対象研究には、関東・東北ブロック推薦によるつぎの1点が決定されました。

また、1989年度の研究助成現在募集中をです。

—1988年度研究助成対象研究—

研究課題 : 「企業の秘書業務における情報機器活用の実態調査」

研究期間 : 2年継続

研究代表者: 秋葉英一(東京情報経理専門学校) ほか3名

—第8回全国大会のご案内—

日本秘書学会第8回総会並びに全国大会の会場及び概略日程が下記のとおり決定しました。

現在本大会での研究発表を募集中です。秘書学及び秘書教育に関するものでテーマは自由です。応募の締切りは1989年3月10日(金)です。応募要領の詳細案内は、会員にはすでに送付済みです。お問い合わせは学会事務局まで。

なお、詳細な「大会プログラム」及び「参加要領」は、5月上旬までに大会委員会(委

員長: 城西大学女子短期大学部 戸田忠一副学長)からご案内いたします。

《第8回全国大会 概略日程》

●大会期日/1989年6月15日(木)・16日(金)の2日間

●会 場/アルカディア市ヶ谷(私学会館)
東京都千代田区九段北4-2-25
Tel 03-261-9921

●概略日程

6月15日(木)

9:40～16:40 総会、講演、研究発表

17:30～19:30 懇親会

6月16日(金)

9:30～15:00 テーマ別研究会